



現状と課題

● 現状

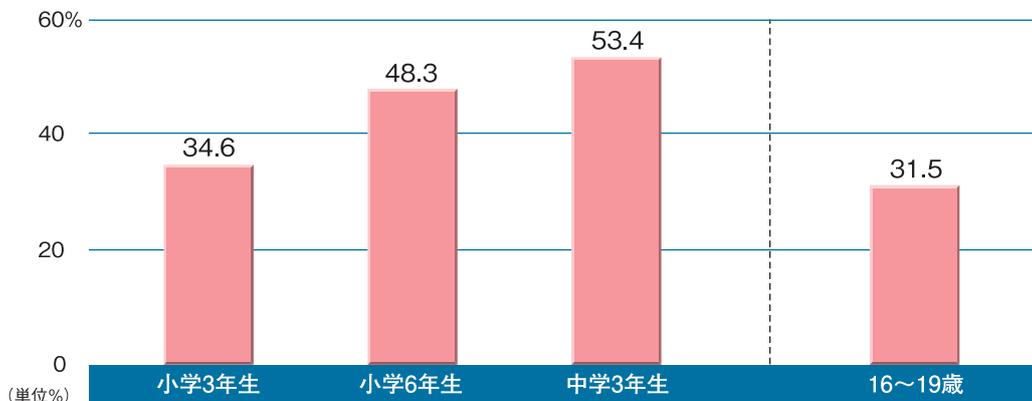
小学3年生で飲酒したことがある子どもは34.6%、小学6年生では48.3%、中学3年生では53.4%と学年が上がるにつれて飲酒したことがある子どもの割合は高くなっています。

16～19歳で飲酒したことがある人は31.5%です。

● グループで話し合われた内容

子どもが飲酒したきっかけの多くは、好奇心や親などにすすめられて、または、なんとなくです。未成年者の飲酒は、精神的・身体的影響が大きく、法律で禁止されています。未成年者に飲酒させないために、飲酒が体に及ぼす影響を周知し、指導していく必要があります。また、そのことを未成年者に飲酒をすすめる大人にも同様に周知していく必要があると考えます。

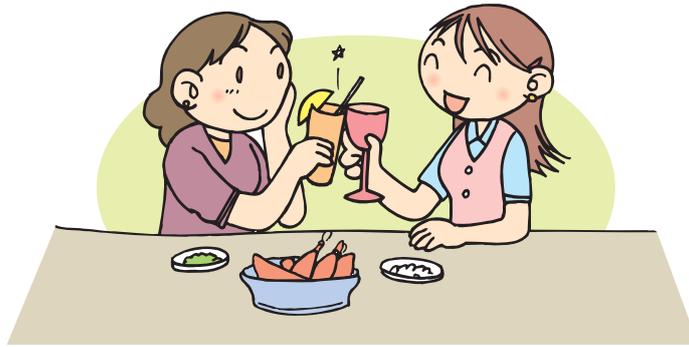
飲酒したことがある人



● 課題

未成年者の飲酒をなくす。





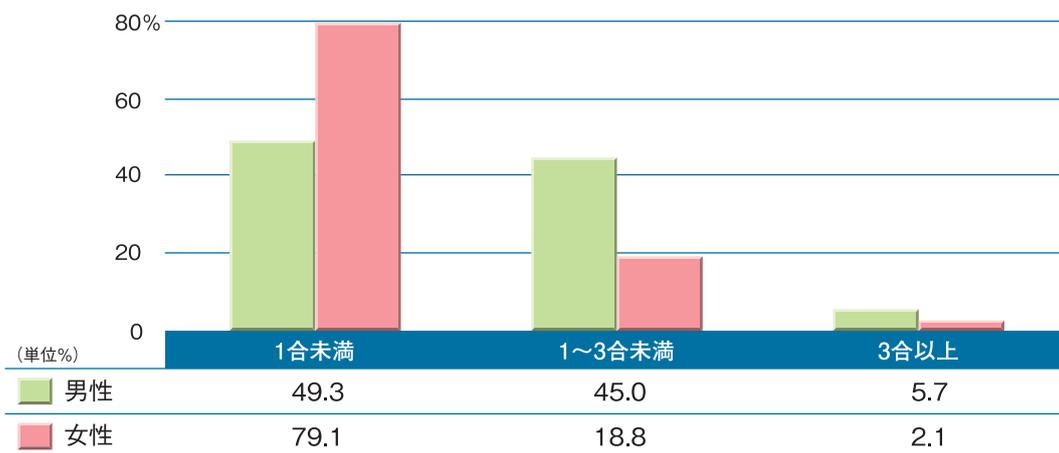
● 現 状

適度な飲酒とは、日本酒に換算して1合程度とされています。しかし、16歳以上の人でそのことを知っている人は49.9%です。20歳以上の人飲酒量は1合以上が、男性は50.7%、女性は20.9%であり、飲酒をする男性の半数以上は適度な飲酒量を超えています。一方、多量（3合以上）に飲酒する人は、男性が5.7%、女性が2.1%となっています。

● グループで話し合われた内容

適度な飲酒は、気持ちをリラックスさせたり、体に良い影響を与えていると言われています。しかし、適度な飲酒量を超え、多量飲酒を続けた場合には、自分自身の健康ばかりでなく、アルコール依存症を引き起こすことで、家族など周囲の人にも影響を及ぼします。飲酒の健康への影響について正しい知識を周知し、適度な飲酒に努める人を増やす必要があると考えます。

飲 酒 量



● 課 題

適度な飲酒に努める人を増やす。(飲酒する人の場合)

取り組み 年度別



1

未成年者にアルコールの害に関する知識を普及する

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
<p>市民 の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●未成年者がアルコールの害に関する知識を習得する ●未成年者は飲酒しない 			
<p>関係機関 の取り組み</p> <p>《関係機関名》 小学校、中学校 高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生向けのアルコールの害に関する教材を作成する（小学校、行政） 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生にアルコールの害に関する教育を行う（小学校、行政） 		
<p>行政 の取り組み</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●中学生向けのアルコールの害に関する教材を作成する（中学校、行政） 	<ul style="list-style-type: none"> ●中学生にアルコールの害に関する教育を行う（中学校、行政） 	
			<ul style="list-style-type: none"> ●高校生向けのアルコールの害に関する教材を作成する（高等学校、行政） 	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校に教材を提供する（行政）

2

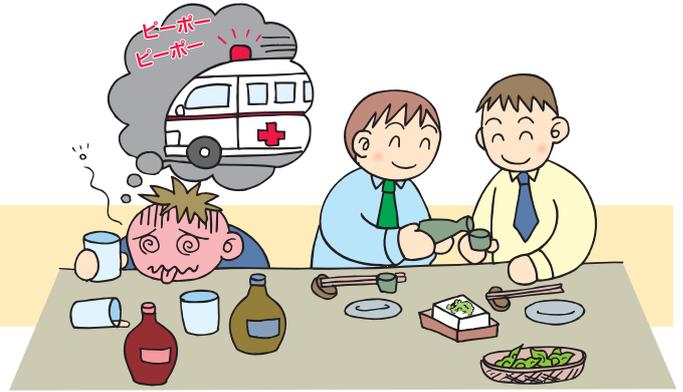
未成年者が飲酒しないための環境を整備する



	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
<p>市民 の取り組み</p>				
<p>●未成年者に飲酒をすすめない</p>				
<p>関係機関 の取り組み</p> <p>《関係機関名》 アルコール販売店</p>				
<p>●未成年者にアルコールを販売しない（アルコール販売店）</p>				
<p>行政 の取り組み</p>				
<p>●未成年者にアルコールを販売しないように関係機関に働きかける</p>				

3

適度な飲酒に関する知識を普及する



	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
市民 の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●アルコールの害、適度な飲酒量に関する知識を習得する ●自分の体のアルコール分解能力を知る ●無謀なアルコールの飲み方をしない 			
関係機関 の取り組み <small>《関係機関名》 地域、職場 AA</small>	<ul style="list-style-type: none"> ●適度な飲酒量に関するポスターを掲示する（地域、職場） ●慢性的な多量飲酒を防ぐための知識を普及する（AA） 			
行政 の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●広報紙やポスター、健康まつりなどでアルコールの害、適度な飲酒量に関する知識を普及する ●アルコールパッチテストを行う ●妊婦に対し、飲酒が胎児に与える影響に関する知識を普及する 			

評価指標および目標値 **課題別**

課題	評価指標	現状値	目標値	
未成年者の飲酒をなくす	飲酒経験のある人の割合	16～19歳	31.5%	0%
		小学3年生	34.6%	0%
		小学6年生	48.3%	0%
中学3年生		53.4%	0%	
飲酒してもいい年齢が20歳からであることを知っている子どもの割合	小学3年生	91.7%	100%	
	小学6年生	93.5%	100%	
	中学3年生	95.4%	100%	
飲酒しても家族から注意されない子どもの割合	※1 中学3年生	63.9%	0%	
適度な飲酒に努める人を増やす(飲酒する人の場合)	1日平均飲酒量が3合以上の人	※2 20歳以上男性	5.7%	3.7%
		※2 20歳以上女性	2.1%	0.8%
適度な飲酒量を知っている人の割合	20歳以上男性	54.6%	100%	
	20歳以上女性	47.9%	100%	

※1 …… 中学3年生で飲酒経験のある子どもに対する割合

※2 …… 20歳以上で飲酒する人に対する割合

用語解説

AA

(アルコールクス・アノニマスの頭文字)

アルコールの問題を持つ人たちが、お互いの経験と力と希望を分かち合い、共通する問題を解決していくために互いに助け合っているアルコール(アルコール依存の人)たちの自助グループ

[資料：「AA中部北陸セントラルオフィス」パンフレット]

アルコールパッチテスト

体内でのアルコール分解能力の目安を知るためのテスト